

「^しほうよし」の まほろばに



まほろば厚別店従業員一同

発酵に関わる事、商売に関わる事、今日まほろばにある事、みな先祖が辿って来た道筋だったんですね。驚きの連続でした。

その中でも、最も注目すること、大切なことが、「三方よし」の精神でした。「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」。売るほうだけが儲けて得するのではなく、買う消費者も健康によく家族によく、それがひいては社会全般をよくする、という商いの心構えを3、400年前の近江商人は志し、実行していたのですね。自分だけでなく、世間あつての己であり、店であるという互助精神が今に生きているのですね。

それは、地獄に留まるお地蔵様が「地獄の衆生、残らず浄土極楽に戻すまで、吾は帰らじ」との誓悲願や、宮沢賢治の「世界人類が幸せにならない限り、自分の幸せはない」と語っている世界観にも通じます。

それに一つ加えたのが、今は亡き寺田啓佐社長の「神様よし」ですね。三方がよければ、神様が一番喜んで下さる。そうだ！神様の喜ばれるような生き方をすれば、そんな目標を掲げれば、自ずと世間様も買い手様も自分たちもみなよくなるというもの。有難いですね。有難い遺訓を祖先様は伝えて下さってありがとうございました。

先日TVで、歌舞伎役者の坂東玉三郎さんとお笑いの岡村隆史さんとの「仕事の流儀」未公開トークで、「天から観られている。

だから嘘はつけない」。「誰にも分からないところをちゃんとしないと、罰が当る」と妥協なき日々を舞台に生きていると語られていました。

人生も舞台。同じだと思えます。

「神様よし」と褒められるよう、そんな先祖の遺訓を継いで、「^しほうよし」のまほろばでありたいものです。

みなさま、お互い様で、よくなりましょうね。みんなが笑いの絶えないように、まほろばも生きて行きたいと思えます。皆さまとご一緒に歩いて参りたいと願うのです。

今年一年、いや一生、みなさまお元気で過ごされますようお祈り申し上げます。

2016年 一月吉日



まほろばだよ
No.4239 16-15 1/15

まほろば主人 宮下 周平

きなご縁であります。

そして、昨年さらに祖先の力があることを知らされました。

同じ母方が会津ということで、郷土史家の大橋しのぶさんに案内され、ルーツ探しをしたところ、会津で商人をしており、しかも滋賀の日野から渡って来た近江商人であったことを報らされたのです。同郷に酒蔵の寺田本家さんがおりました。関東一円、北陸東北にかけての酒・味噌・醤油の発酵醸造は、みな近江商人が興したものだそうです。詳しいことは大橋女史の「会津から近江、そして倭へ」の小冊子をシリーズでお読みください。



まほろば本店従業員一同

あらたま 新玉の歳^{ことほ}の初めを寿^{ことほ}ぎ、心よりお祝い申し上げます。

おめでとうございます。

とはいえ、既に正月半ば。時の過ぎ行く速さは、驚くばかりですね。

こうして、1年また1年と、かれこれ32、3回を重ねて参りました。

振り返れば、一瞬のような気が致します。

私としては、よくこれまで続いたかな、という思いもあります。

幼い頃より「お前は、飽き性で、どうにもならん」と頻りに叱られてばかりいたものから。不思議といえば、これほど不思議なことはないのでございます。

これは、表立って言うのも口幅^{くちば}ったいのですが、家内の力が何よりも大きく、今日まほろばが在るのも、私が在るのも、家内を置いて他に考えられないのであります。そして殊に秀でた店長と編集長の右腕・左腕に恵まれたこと、そして善き多くの人材に助けられた、そして何よりも、数多くの古きも新しきも素晴らしいお客様に支えられてきたことが、今日あるまほろばを続けさせて頂いた大